

# 市政の運営方針

平成30年6月8日



# 市 政 の 運 営 方 針

(平成30年6月8日)

私は、この度の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様のご支援を賜り、市政の重責を担わせていただくことになりました。

生まれ育った故郷東金のまちづくりのかじ取り役を託されたことに、身に余る光栄と同時に、課せられた責務の重さに身の引き締まる思いをいたしているところであります。

また、5万9千人の市民の皆様方の思いをしっかりと汲み取りながら、一つ一つ着実に、よい選択を積み上げていきたいと考えております。

さて、我が国はあらゆる分野で変革が進んでおり、現在、国と地方を挙げて地方創生の取組みを進めているところですが、こうした取組みを進める上で、重要なことは、「住む人、働く人、来る人」等の幸せのために、必要なことを考え、夢を描きながらも現実的な観点を持ちつつ、市民をはじめとする関係者の皆様と協力・連携して、着実かつ柔軟に行政施策を進めていくことだと考えております。

特に、市民生活に密接にかかわる地方自治体は、それぞれの地域の特性を活かし、市民ニーズに沿った、より自主性と自立性を高めた行政運営が今まで以上に求められています。

私は、これまで先人が築いてこられた、東金市政の良い部分を引き継ぎながらも、東金市が本来持つ特徴や、個性を活かした都市となるために、必要な種をまいていくとともに、東金市を山武郡、千葉県、そして首都圏の中で誇れる都市へと成長させて行きたいと考えています。

故郷東金は、多くの先人のご努力により、確実な歩みを続けてまいりましたが、人口の減少、少子高齢化、厳しい財政状況など、さらには教育や地域の活性化などへの迅速かつ的確な対応が求められています。

このような社会経済状況を踏まえ、本市の持続的な発展を図るため、私は、今後の市政運営に全身全霊を捧げてまいりる決意であります。

私は、この度の選挙を通じまして、多くの市民の皆様と直接話し合いをしてまいりましたが、財政の立て直し、東千葉メディカルセンターの経営の健全化、地域の活性化、教育の充実、子育て環境の整備など、市民の皆様のお考えを的確に反映しなければならないものと感じておりまして、しっかりと取り組んでまいります。

そして、4年間の市政運営にあたりましては、3点の基本理念を軸にしてまいりたいと考えております。

一つが、「市民とともに進める」であります。

市政の根幹である市民自治の取り組みを一つ一つ進化させるとともに、市民の力、英知を引き出し、市民総がかりでのまちづくりを進めてまいります。

市民の皆様との対話を重視した市政運営を行い、対話と参加を通じて市政運営への信頼感、納得感、一体感を高めてまいります。また、市民、市民団体だけではなく、大学等の学術機関、企業、各種団体など、事業と継続性を有する組織との連携を図るなど、さまざまなパートナーシップを活用してまいります。

二つ目に、「未来へのバトン」であります。

未来の市民にも責任が持てる市政運営が重要であります。未来にツケを残さない財政再建、中長期的な視点を持った政策判断を行ってまいります。

特に本市の財政は、財政調整基金を毎年取り崩すといったことで実質的には、毎年赤字といえる決算となっているなど、硬直化し、非常に厳しい状況にありますので、聖域なき見直しと抜本的な改革が必要と考えております。

一方で、周辺の自治体と比べ、著しく投資を抑制することで、将来の活力を失うことがないように、未来への投資とのバランスを考慮してまいります。

三つ目に、「配慮する社会」であります。

現在の社会においては、様々な格差が広がっております。置き去りにされているのではないかと感じる方々の存在に、行政がしっかりと向かい合い、メッセージを送ることが重要であります。生活に困窮されている方、貧困や児童虐待に苦しむ子供たち、孤独感を感じている高齢者の方、バス交通の減少などによる地域の孤立などに目を向けた、きめ細やかな福祉政策に、今まで以上に取り組んでいかなければならないと感じています。

このような市政運営の基本理念のもとに、東金市が魅力的な街であり続け、未来に向けて更なる発展を遂げるために「改革前進！」を合い言葉に、次の6つのビジョンを柱に、各施策の取組みを進めてまいります。

一つ目は、「市民参加、地域の力を活かし、元気なまちに」でございます。

現在、国においては、一億総活躍社会の実現に向け、「働き方改革」や「人生100年時代構想」の策定などに取り組んでいるところでございますが、本市といたしましても、市民、一人ひとりの力を集めた地域力と多様な資源を活かしながら、人材育成や仕組みづくりを行ってまいりたいと考えております。

具体的な取組みといたしましては、市民提案型協働事業に代表される市民の皆さんとの協働を推し進めながら、地域やボランティア団体との連携により、それぞれの地域や様々な活動をされている方々が、その能力を活かし、後継者の育成などに自らが取り組んでいただけるような仕組みづくりを検討して行くとともに、市民との直接的な対話など、ご意見をいただく機会を積極的に設けてまいります。

2つ目のビジョンといたしましては、「子どもたちの今と未来のために」でございます。

国においては、子育て支援・少子化対策の一環として、早ければ来年度の秋から、幼児教育・保育の無償化の本格実施を行うなどの施策を打ち出しておりますが、本市といたしましても、市民の方々のニーズを踏まえながら、子育て環境、教育環境の充実を図ってまいりたいと考えております。

具体的な施策といたしましては、東金市八坂台地先に新たに定員105名の民間保育所の開設が計画されており、平成31年4月の開設に向け、諸準備が進められているところでございます。市といたしましても、国の「保育所等整備交付金」の活用による民間事業者への補助を行うとともに、こうした民間との連携・協力も行いながら、保育環境の更なる充実を図り、潜在的待機児童の解消までを見据えた、真の意味での待機児童ゼロを目指してまいります。

また、本年度より、こども課の内部に「子育て世代包括支援センター」を開設いたしました。「子育て支援コーディネーター」と「地区担当保健師」とが情報を共有し、連携を図りながら、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を確保してまいります。

また、首都圏に暮らす高齢者が自らの希望に応じて東金市に移り住み、様々な世代の方々と交流しながら、健康でアクティブな生活を送ることができるまちづくり、いわゆる「日本版CCRC」につきましても、実現の可能性について研究を進めてまいります。

3点目のビジョンは、「地域の産業と経済の活性化」でございます。地域資源を活かすとともに、新たな産業振興の構想を描き、農業・商業・工業の再活性化を図ってまいります。また、雇用の創出につながる施策なども検討してまいりたいと考えております。

具体的な取組みといたしましては、「道の駅みのりの郷東金」に新たに完成した加工場を農産物の高付加価値化に繋がる6次産業化の拠点施設として位置付け、本市を含めた地域全体の産業の活性化に発展させていくためのモデルケースとなるよう、関係団体や近隣自治体との協力・連携といった、市としての役割を果たしてまいります。

こうした6次産業化の取組みによる地域ブランドの創出や生産者の育成に加えまして、認定農業者制度や農業次世代人材投資事業などにより、新規就農者や担い手の育成・確保を図り、農業後継者の不足問題の解消にも努めてまいります。

また、城西国際大学の卒業生を始めとする若い方々が、この地で就職し、東金を定住地として選んでいただくためには、魅力ある雇用の場と、賑わいのあるまちづくりが必要だと認識しております。長期的な視点での取組みとなりますが、東金駅西口を含めた中心市

街地の活性化と、創業支援や新たな雇用の場の創出につきましても、民間資金の活用も十分に考慮しながら、大学や関係機関などとの連携を図り、検討してまいりたいと考えております。

4点目のビジョンは、「住みやすいまち、便利さをさらに向上」でございます。本市の魅力の一つとして、現在でも、千葉や東京方面への高速バスは、充実している状況にあります。都心に近い本市の立地優位性を活かし、交通の利便性をさらに高め、人とモノが行きかうまちを目指してまいります。

具体的な取組みといたしましては、東金市地域公共交通会議の意見なども伺いながら、高齢者などのいわゆる交通弱者の方々を始めとする市民の皆様のニーズを把握して、市内公共交通の利便性を高め、暮らしやすさの向上に努めてまいります。

今年度中には、東千葉メディカルセンターで新たに患者送迎用の車両を導入する予定でございます。設立団体といたしましても、この新たな送迎車両が市民の皆様にとって利用しやすいものとなるよう、協議を行ってまいります。

また、JRの利便性を高めることを目的とする求名駅へのエレベーターの設置につきまして、2020年度に設置工事が実施できるよう、本年度は、JR東金線複線化促進協議会における協議を踏まえ、基本調査を実施してまいります。

また、国土交通省では、圏央道の大栄ジャンクションと松尾横芝インターチェンジ間について、2024年度中の開通を目指すことを公表しております。圏央道・東金ジャンクションを持つ本市といたしましても、周辺自治体や関係機関との連携を図りながら、早期開通を働きかけるとともに、開通後においては、交通の要衝である本市の優位性を更に確かなものにする事業計画、交通政策としては、高速バスの発着点となるバスターミナルの整備などについても、検討を進めてまいりたいと考えております。

5点目は、「まちの安全・ひとの安全、地域の環境を守るまちづくり」でございます。自然災害に強く、事故・犯罪のない安全なまちづくりを推進するとともに、豊かな自然と住みやすい環境を守る取組みを進めてまいります。

具体的な施策といたしまして、防災面では、5カ年事業として取り組んでいる「防災行政無線のデジタル化」について、3年目を迎える本年度も、着実に実施して行くとともに、新たに5月から、消防防災課の公式ツイッターを立ち上げたほか、携帯電話用のアプリの導入なども計画しており、時代に即した情報発信の充実を図ります。

続きまして防犯面では、本年度、本市としては初めてとなる「防犯ボックス」の設置を計画しております。「防犯ボックス」は、警察官OBの勤務員と地域の防犯ボランティアの方々が連携して、パトロール、見守り活動、監視活動などを実施することにより、地域の防犯活動が活性化することを目的としています。

市民の皆様の防犯に関する意識の醸成も図りながら、犯罪の無いまちを目指してまいります。

また、環境面では、新たに小中学生を対象とする地球温暖化に係る啓発イベントの開催などを検討しており、本市の豊かな自然環境を将来にわたって守るための取組みも行ってまいります。

最後の6番目のビジョンは、「東千葉メディカルセンターの経営健全化」でございます。

東千葉メディカルセンターにつきましては、山武長生夷隅保健医療圏の救急医療体制の整備と診療体制の充実を掲げ、開院以来24時間365日体制で当該保健医療圏で唯一の三次救急医療を提供し、この地域の中核病院としての役割を担ってまいりました。

増田理事長の就任以降、急性期医療に必要な脳神経外科や麻酔科の機能が大幅に増強されており、この地域における医療の質の向上や住民の安心にもつながっているところでございます。

しかしながらご承知のとおり、経営面におきましては、救命救急センターを併設していることなどにより、開院初年度から資金不足に陥り、毎年度赤字の状況が続くなど、市財政に対する影響も看過できない状況であり、抜本的な経営改善が急務となっております。

早期の経営改善を図るには、本年度からスタートいたしました第3期中期計画の着実な推進が必要であることから、経営面の管理機能の強化を目的に、法人の最終的な意思決定の場である理事会に設

立団体の副市長と副町長が理事職として加わるなど、経営改善に向けた体制の構築も進めているところでございます。

特に計画初年度の取組みは、今後4年間の経営を大きく左右することから、これまで以上に設立団体としての意見や要望等を直接申し述べて、法人の経営改善に向けた取組みに対し、共に努力してまいり所存でございます。

また、最大の懸案事項であります千葉県からの追加財政支援につきましても、その実現に向けて全力で取り組んでまいり決意でございますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上が、私の6つの政策ビジョンに基づく市政の運営に関する基本的な方針でございます。

冒頭でも申し上げましたが、本市も、近年では、他の自治体と同様に、人口減少、少子高齢化といった課題に加え、行財政運営の改善といった課題も顕著化してまいりました。

東金市は、東京都心から約50キロメートルに位置し、成田空港や千葉港からも近く、温暖な気候に恵まれています。また、古くから、周辺地域の農産物の集積の場として「上総の黄金町」と呼ばれ、物流の要衝として賑わいをみせており、当時から受け継がれてきた伝統や文化などとともに、九十九里地域の中核都市として発展してまいりました。

また、就任からこの1ヶ月半の間、私は、国、県をはじめとする市内・近隣の行政機関、経済関係団体、教育機関、各種団体、また、多くの市民の皆様と様々な場所で積極的に意見交換を行ってまいりました。

このような中で感じたことは、改めて関係者の皆様の意識の高さ、市民力の高さ、地域力の高さ、また、地域間競争と連携のバランスの必要性、総括いたしますと、東金市を中心とするこの地域の可能性の高さでございます。

来年4月30日で天皇陛下が退位され、5月1日には皇太子さまが即位されることが決まり、時代は、まさに平成から新しい元号の時代へと、移り変わろうとしております。このような時代の転換点におきまして、私は、東金の持つ高い可能性を飛躍への力に変え

て、新たな時代への扉を大きく開き、子どもたちに誇れる東金の未来のために、不退転の覚悟を持って、市政運営に臨む所存でございます。

私の6つの政策ビジョンの実現に向けて、今後のまちづくりの構想ということにもなりますが、まずは、20年先、30年先の東金市のあるべき姿の具現化を行政だけの独りよがりではなく、市民の皆様と一緒に描いて行くことが必要だと考えております。そのあるべき姿が決まれば、その目標に向かって何を優先して実施していくべきか、選択と集中の整理をしながらも、おのずと進むべき道が見えてくるはずです。そして、何をすべきかが決まれば、財政フレームの中で、どう実現できるかの発想が、おのずとできるようになります。

市の職員に対しましても、5月一杯をかけて行なった各事業に関する職員との意見交換を通じて、私のスローガンである「改革前進」の実現に向けて、こうした考え方を意識し、「人、カネ、モノ、情報」を整え、政策や日常の市民サービスに務めてもらいたいということを指示してまいりました。

以上、私の基本的な考え方を述べさせていただきました。

今、時代は、将来予測が極めて困難な時期を迎えている中で、先ほど申し上げたように、現在、国と地方を挙げて地方創生が進められており、各地方自治体では、厳しい財政状況の中で、人口減少や少子高齢化などに対して、新たな視点に立った行政運営が求められています。

私は、今後とも市議会と執行部との良好な信頼関係のもと、「じっくり聞いて、しっかり実行」をモットーに、新市長としての清新な気概を持って、全庁一丸となって市政の発展と市民生活の充実・向上のため、全力を傾注してまいりますので、議員各位には、特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。